

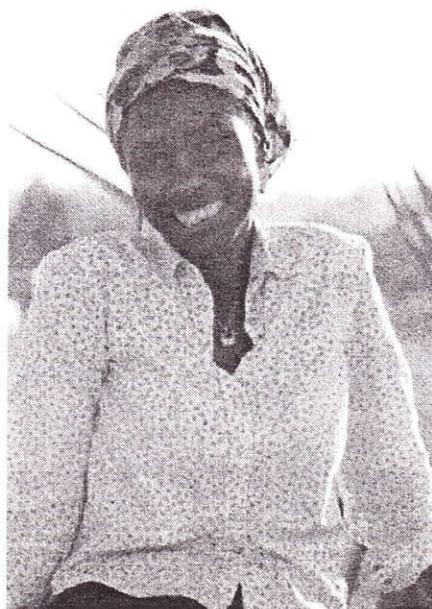
けっしょうも 結晶母

発行:テラ・ルネッサンス 発行日:2006年10月1日

Terra
Renaissance

Topics

トシャ・マギー(ウガンダ事務所スタッフ)が全国各地で報告会。



写真上:11月に来日予定のウガンダ
現地スタッフ、トシャ・マギー

写真下:スマイルハウスにてテラ・ルネッサンススタッフ集合写真



■結晶母目次

- P01 理事長挨拶
- P02 設立5周年記念全国キャラバン
- P04 ウガンダ事業報告
- P06 カンボジア事業報告
- P08 事業紹介
(Webで入会・更新/
大阪平和映画祭/ぜろ祭り)
- P09 事業報告(8月~9月)
(夏期募金/スタディツアー
/ボランティアルーム)
- P10 ウガンダコーヒー販売
- P11 インターン/スタッフ紹介
(上原誠子、中期インターン)
- P12 今後の予定/イベント紹介

10月で設立5周年を迎えます!



テラ・ルネッサンスを設立したのが、2001年10月。今月、私たちは設立から5年を迎えました。節目の月を迎えて、活動を振り返ってみると、どれだけ多くの方に支えていただいたのか、感謝で胸がいっぱいになるのです。

その記念すべき年に、本会で初めての外国人スタッフであるトシャ・マギーが来日します。「支援を下さる日本の皆さんに、心からの感謝をお伝えしたい。」と、報告の準備に一生懸命だそうです。京都、東京など、各地で報告会を開催いたします。お近くの報告会場に、ぜひ足をお運びください。

設立目的である「すべての生命が安心して生活できる社会を実現」するまで、初心を忘れず、歩み続けてまいります。

理事長: 鬼丸昌也

■11月10日より設立5周年記念『全国キャラバン』が始まります。

本年10月で、テラ・ルネッサンスは設立5周年を迎えます。地雷除去支援を皮切りに、義肢装具士の育成、ウガンダでの元子ども兵社会復帰プログラムなど、『地雷・小型武器・子ども兵・平和教育』をキーワードに、幅広い活動を展開することができました。

会員・支援者の皆さまに、感謝の気持ちをお伝えするため、テラ・ルネッサンス初の海外スタッフであるトシャ・マギー（26）が来日し、京都・東京、沖縄、群馬、青森、鹿児島など、全国各地で活動報告をさせていただきます。現在、日本の皆さまへ心からの感謝をお伝えできるように、一生懸命、報告の練習・準備を行なっているそうです。

今回の全国キャラバンを機会に、全国各地でウガンダ北部、子ども兵などの課題、そしてテラ・ルネッサンスの取り組みについて、多くの方にご理解いただけることを願っております。ぜひ、お近くの会場に足をお運びくださいますよう、お願い申し上げます。

■トシャ・マギーから、皆さまへのメッセージ

私はブルンジで生まれました。母親が赤ん坊の頃に亡くなり、父親一人に育てられてきました。しかし、私が七歳のとき、その父親が虐殺で殺され、兄弟も行方不明で私は一人難民となって、隣国のコンゴ、タンザニア、ケニアと渡り歩き、13歳の時にウガンダにやってきました。

一度も学校に行ったことのない私が働ける場所は限られていましたが、それでも必死に働きながら、自分で英語や算数など、生活するのに必要な知識を身につけ、インド人の会社で働きながらコンピューターの勉強もやってきました。

私にとっての希望は、(ウガンダの首都)カンパラの道端で、生活していた孤児の子どもたちです。彼ら5名を、私の子どもとして育てています。そんな子どもたちの笑顔に、今まで生きてきました。

テラ・ルネッサンスで働こうと思ったのは、私と同じように紛争の影響で犠牲になった人たちに少しでも希望を与えられるよう、何か自分にできることをやってみたいと思ったからです。

同時に、テラ・ルネッサンスの「ひとり一人には未来を創る力がある」という理念に、心から共鳴したからです。これからも、私にできることを精一杯やらせていただこうと思っています。

この全国キャラバンで、日本からご支援してくれている方々に、心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。



【トシャ・マギー プロフィール】

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス ウガンダ事務所職員。1980年ブルンジ共和国生まれ、26歳。幼い頃に母親を亡くし、父親に育てられてきた。7歳のとき、ブルンジ内戦の虐殺で、父親が殺害され、兄弟も行方不明となる。難民として、コンゴ、タンザニア、ケニアと渡り歩き、13歳の時にウガンダへ。独学で英語・算数など必要な知識を身につけ、インド人の経営するコンピューター会社へ就職。5名のストリートチルドレンを引き取り、自分の子どもとして育てている。05年にテラ・ルネッサンスと出会い、「一人ひとりに未来を造るちからがある」という理念に共鳴し、現地職員になる。現在、ウガンダ事務所職員として、スマイルハウス（元子ども兵者社会復帰促進センター）の運営などに関わっている。

■11月10日(金) 京都報告会では、ジェーン・グドール博士が出演

全国キャラバンの最初の報告会は、私たちの活動の本拠地・京都市で行ないます。

今回、著名な類人猿研究者であり国連平和大使として活躍されているジェーン・グドール博士が、特別に出演くださることになりました(第1部のみ)。博士は、『ぼくは13歳 職業、兵士』に推薦文を寄せてくださるなど、日ごろからテラ・ルネッサンスの活動を支援くださっています。

第1部 ジェーン・グドール博士特別講演会 ～ルーツ&シューズ 希望の新芽を育てる～

基調講演：ジェーン・グドール氏(国連平和大使/類人猿研究者) 報告：トシャ・マギー

第2部 テラ・ルネッサンスの挑戦 ～元子ども兵の社会復帰を目指して～

報告：小川真吾、トシャ・マギー

日時：2006年11月10日(金)

第1部 ジェーン・グドール博士特別講演会 13:00～15:00 (開場12:30)

第2部 テラ・ルネッサンスの挑戦 19:00～21:00 (開場18:30)

場所：ウィングス京都イベントホール(京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262)

地下鉄四条駅・阪急烏丸駅(20番出口)下車徒歩約5分

参加費：第1部 ジェーン・グドール博士特別講演会 ￥1,500

第2部 テラ・ルネッサンスの挑戦 ￥1,000

【ジェーン・グドール博士(Dr. Jane Goodall)】野生チンパンジー研究者・国連平和大使

1934年イギリス・ロンドン生まれ。26歳の時よりタンザニア・ゴンベのジャングルにてチンパンジーの研究を始める。世界で初めて、チンパンジーが道具を作り・使うという事実を発見するなど目覚ましい研究成果をあげ、チンパンジー研究の世界的な権威となる。1977年には、野生動物研究・教育・保護団体ジェーン・グドール・インスティテュート(JGI)を設立。ジェーン・グドール博士は現在、執筆のかたわら、ほとんど休みなく世界中をめぐり、講演や教育活動をおこない、世界平和や未来への希望を訴え、子供たちを勇気づけることにより、世界を変えようとしている。著書は『森の隣人—チンパンジーと私』『心の窓—チンパンジーとの30年』『森の旅人』など多数。



■11月11日(土)には、東京都内でも報告会を開催

テラ・ルネッサンスの挑戦 ～元子ども兵の社会復帰を目指して～

報告者：小川真吾、トシャ・マギー

日時：2006年11月11日(土) 19:00～21:00

場所：JICA 地球ひろば(東京都渋谷区広尾4-2-24)

東京メトロ日比谷線広尾駅下車(A3出口)徒歩1分

参加費：￥1,000

京都、東京の報告会
とも、申込はテラ・
ルネッサンス事務
局まで、電話でお問
い合わせください。
(電話/FAX：
075-645-1802)

■全国キャラバン協賛をお願いしています。

トシャ・マギーの招聘費用、全国キャラバン経費のご協賛をお願いしております。一つでも多くの会場で報告会を開催できるように、皆さまのご協力をお願い申し上げます。ご協賛いただける方は、下記の郵便振込口座にひと口1,000円からお振込みくださいませ。

加入者名：テラ・ルネッサンス基金 加入番号：00950-7-133760

※通信欄に『全国キャラバン』をご記入ください。

■ウガンダ情勢 最新報道 (9月25日現在)

ウガンダでは、7月中旬から8月中旬にかけて、政府軍と反政府軍(LRA)の間で和平交渉が行われていました。これにより、ウガンダの情勢はめまぐるしく変化しています。

大きな動きとしては、8月29日、政府軍とLRAが「停戦合意」に署名しました。しかし、これは双方に対する敵対行為やプロパガンダを停止するという内容にとどまっており、包括的和平合意までには更なる交渉が必要とされます。



LRA 指導者
ジョセフ・コニー



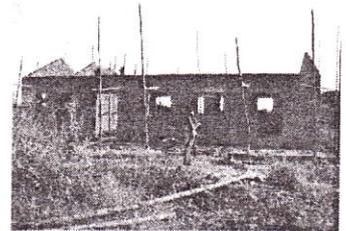
ウガンダ大統領
ヨウェリ・ムセベニ

同合意でLRAは、合意の執行から3週間以内に指定された集合ポイントに集まることになりました。けれども3週間という期日を過ぎた時点で、多くのLRA兵士が集合ポイントに集まったものの、指導者のジョセフ・コニーは姿を現しませんでした。コニーも含めたLRA軍全員が、3週間以内に集まることが、和平交渉を開始するための前提条件とされていましたが、コニーが姿を現していない現在、和平交渉が再開される見通しはまだ立っていません。この交渉がスムーズに運ばない一番大きな原因は国際刑事裁判所(ICC)へLRA指導者5名の身柄を引き渡すかどうか、という争点です。政府側は恩赦法を適用しICCへは引き渡さないと表向きに発表していますが、一方でICCがLRA指導者たちの拘束を強く要求していることもあり、LRA側は政府側の発表(ICCに引き渡さない)を信用できずに、交渉が停滞しています。現地では、以前にも和平交渉が成立寸前で崩壊したという先例があるために、住民間ではICCによる裁きに固執するよりも、許しと和解(恩赦)により一刻も早く20年にわたるこの紛争を終結したいという声が多く聞かれます。テラ・ルネッサンスでは、現地スタッフと連絡を密にし、HP (<http://www.terra-r.jp/>) や公式ブログ (<http://terra01.exblog.jp/>) などで、現地の正確な情報を皆様にお伝えしていきます

写真出展：<http://www.bistandsaktuelt.com/Les.asp?ID=511> <http://www.hornafrik.com/NewsPage/news0283.htm>

■第2棟目「グローブ・ハウス」建設中！

ウガンダ北部グル市にて、株式会社アイケイ様 (<http://www.ai-kei.co.jp/> 代表取締役：飯田裕様) のご支援により、「グローブ・ハウス」を建設しています。この「グローブ・ハウス」は、「スマイル・ハウス」の隣に建設され、第2教育棟として使用されます。今後は、この「グローブ・ハウス」において、基礎教育やプライマリーヘルスケアの指導、環境、平和教育などが実施されます。



建築中の「グローブ・ハウス」

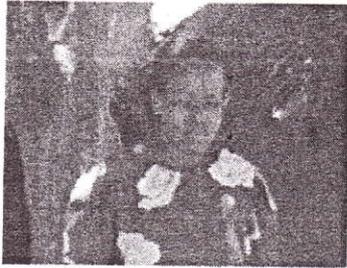
■10月より第1期生は小規模ビジネススタート！そして、新たに第3期生も！！

10月より、ルネッサンス・プログラム第1期生は「スマイル・ハウス」での職業訓練を修了し、小規模ビジネスを開始します。これからは、パートタイムでの訓練や小規模ビジネスの指導を受けながら、マイクロクレジットを利用して、自ら考えたビジネスによって収入を向上させていきます。同時に、第3期生が「スマイル・ハウス」に加わります。現在、選考中ですが、約30名の元・子ども兵への自立に向けた支援・訓練を始める予定です。

元・子ども兵の社会復帰を3,000/月から支援するルネッサンス・プログラム・サポーター募集中！！
会費は元・子ども兵の基礎教育・職業訓練費、食費、医療費等に使用されます。
詳しい情報はテラ・ルネッサンス事務局・担当吉田 (tel: 075-645-1802) までお問い合わせ下さい。

■元・子ども兵たちの変化 1期生 アチャン・ジャックリンさん

テラ・ルネッサンスで支援を受け始めてから、元・子ども兵たちは様々な変化を見せています。今回は、昨年4月から受益者となった1期生のアチャン・ジャックリンさんを紹介します。



アチャン・ジャックリンさんは、誘拐されてから自分より一回りも上の大人兵士と強制結婚させられ、その兵士の子どもを出産し、8年間拘束された後に、村に帰ってきました。左の写真はテラ・ルネッサンスの支援を受ける前の彼女です。目からは全く生きる気力さえ感じられませんでした。

帰還後、ジャックリンさんは、村で恋をし、その男性の子どもを身ごもりましたが、相手の男性の家族から、彼女が元少女兵だということで、結婚を断られ、仕方なく子どもを1人で出産することになってしまいました。元子ども兵たちは、故郷に戻って、もこのような差別や困難に苦しめられることも多いのです。



そんなジャックリンさんでしたが、テラ・ルネッサンスで支援を受け始めてから、様々な変化がありました。もの静かで、ほそぼそと話すシャイな子でしたが、授業に慣れるに連れて、授業で質問をし始めるなど、積極的に自立へ向けて動くようになってきました。小規模ビジネスのワークショップでは、一生懸命にメモを取ったり、自立するために節約できるものは最大限節約し、貯金したりしていました。そして、ついに自らの貯蓄したお金でミシンを置いて商売をする場所を市場の一角に借り、洋裁の商売を開始しました。

先日、平和教育の授業の中で、スマイルハウスのイメージを受益者たちが描きました。ジャックリンさんは、その授業を欠席していたのですが、次の日に自分も描きたいと言い、授業外の時間で描いてくれました。絵の中には、「SMILE HOUSE IS GOOD SCHOOL (スマイルハウスは良い学校)」という文字が書かれています。ジャックリンさんと一緒に写っているのは、昨年生まれたシンゴ君。上の写真に写っている小さい赤ちゃんです。こんなに大きくなりました。この名前は、ウガンダ駐在員である小川真吾の名前をとって「シンゴ」と名づけられたそうです。彼女は、「あなた達は私の父親であり母親のようなものです。あなたがここに来てくれるようになってから私は未来に希望を持てるようになりました。だからこの子どもにも“シンゴ”のように希望を与える子どもに育てて欲しい。そう願ってシンゴと名づけました。」と語ってくれました。



スマイルハウスで支援を受けている元・子ども兵たちは、一人ひとり違った変化を見せています。テラ・ルネッサンスは、その一人ひとりの「変化」を大切にしながら、支援を続けていきます。

■テラ・ルネッサンス初の義肢装具士誕生 “障害者の心も補ってほしい…”



卒業式に参加した江角（左）とソクンさん（右）

カンボジア・プノンペンにある義肢装具士養成学校（CSP0）。2006年9月12日、この学校の卒業式が行われ、テラ・ルネッサンスが奨学金を提供してきたカンボジア人学生、ウム・ソクンさんが卒業しました。『彼女は2003年からテラ・ルネッサンスが支援を始めて以来、トップの成績を修めており、非常に優秀な成績で卒業することになった』と義肢装具士養成学校のマネージャー、リザ氏は教えてくれました。テラ・ルネッサンスは、カンボジアで、地雷被害者やポリオ（小児麻痺）患者などの障害者が多数存在することと比べると、長い内戦の影響で、こうした障害者に義肢（義足や義手など）や装具などの補助具を製作する義肢装具士が圧倒的に少ないことに気づきました。カンボジア人の義肢装具士を育成するために「地雷廃絶と被害者の会・熊本（KLCC）」とともに彼女の奨学金90万円／年を提供してきました。特に女性の障害者もたくさん存在するのに、女性の義肢装具士がほとんどいないことから、女性の障害者が安心して義肢装具を提供してもらえる環境を作ること、そして女性がこうした職業についてもっと働いてほしいというジェンダーの視点から彼女の奨学金の提供を決定しました。今回の卒業式には、カンボジア政府の大臣も参加して、一人一人に卒業証書と義肢装具士の認定資格などが授与されました。式の後、催された卒業パーティで、ソクンさんは、『今まで支援をしてくださったテラ・ルネッサンスのすべてのスタッフ、支援者、特に高雄中学校の皆さんには、とても感謝しています』とお礼を述べていました。そして、卒業後はハンディキャップ・インターナショナルというNGOで義肢装具士として働くことが決まっているそうです。ぜひ、この学校で学んだスキルを生かして、障害者の義肢装具を製作することで、彼らの未来を創造し、夢を達成する手助けをしてほしいと思います。“障害者の地雷や戦争のために失われた心を補ってほしい・・・”、それがテラ・ルネッサンスから彼女へのこれからの希望です。



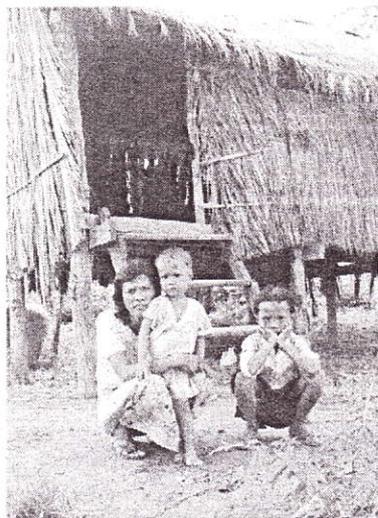
■10月からカンボジアで新しいプロジェクトが始まります。

2006年10月からカンボジアでは、NPO法人インターバンドと共同で、最貧困層の特に地雷や小型武器の被害者のいる家族を中心にパイロット（試験的）プロジェクトを始めます。第1期では、10月～2007年3月までの6ヶ月間、これまで支援してきた除隊兵士プロジェクトの経験を生かし、現地スタッフが小額の資金提供と家族との話し合いでビジネスプランを設計し、最貧困層の自立をサポートします。また、これまでインターバンドの実施してきた5年間のプロジェクトのなかで、様々なトラブルのために自立ができなかった数家族を再支援する予定にしています。2006年9月、カンボジア事業担当の江角とインターバンドのスタッフ、そして現地スタッフでバタンバン州での調査を実施し、バナ地域チャン・ミエン・チャイ・コミュニティ、ドーン村とチャン・ハウ・スヴァイ村の地雷被害者や小型武器被害者、未亡人などいる13家族を選定しました。バナ地域は、1990年代になってもクメール・ルージュと政府軍の激しい戦闘が起きた地域で、内戦中タイの国境難民キャンプから帰還した難民帰還者も多くいます。戦闘が起きた際に地雷も埋められ、地雷被害者も出ている地域です。今回の調査では、こうした内戦の影響で家族自体がばらばらになってしまったり、地雷によって夫を亡くして未亡人になった人、貧困のために子どもたちが働きに出かけている家族など、様々な問題を抱えている家族に出会いました。今回支援をするその中の2家族を紹介したいと思います。

支援対象家族1 地雷によって奪われた夫と生活

コン・パオ夫人 (36歳) 娘1人、息子3人

バタンバン州バナ地域チャイ・ミエン・チャイ・コミュニティ、ドーン村



彼女は、3年前に夫を地雷の事故によって亡くした未亡人です。彼は近くの川の反対側で自生していた野菜を見つけて採りに行ったときに地雷を踏んで、亡くなってしまいました。この川の周辺では何度か地雷の事故が起きていました。結局働き手を失ったこの家族は、現在とても貧しい生活を強いられており、奥さんと一番上の娘が隣人の畑や作物栽培の労働者として雇われて、生活費を稼いでいます。実は、現在住んでいる家の建っている土地もこの家族のものではなく、いつまでこの土地で生活できるかわからない状況です。一番上の娘は、学校へ通うお金がなく、生活していくお金を稼ぐために、プノンペンでウェイトレスとして働いて月50ドルを稼いでいました。しかし、生活できなくなったために戻ってきましたが、その交通費で25ドルの借金があります。学校へ通えているのは一番上の息子だけです。こうした厳しい生活状況と他のNGOの支援が水がめ1つの支援しかないということから、

支援対象家族として選定しました。フェーズ1での小額の資金提供を利用して、まずは簡単に始められる鶏の飼育からスタートしたいと奥さんは語ってくれました。

支援対象家族2 『医者になりたい』…子ども達の夢をかなえるために

バック・パオ夫人 (38歳) 息子2人 娘1人

バタンバン州バナ地域チャイ・ミエン・チャイ・コミュニティ、チャン・ハウ・スヴァイ村

パオ夫人は、夫のDV(ドメスティック・バイオレンス)のために6ヶ月前に離婚しました。夫は、酒を飲んで、暴力をふるい、彼女は頭や体にあざができています。また、肺の病気を患っており、ときどき腹痛もあります。こうした健康状態で働くことが難しく、子ども3人を養っていくことが非常に困難な状況で、食べるものさえないときには、近くのお寺へ行って料理を作る手伝いをして食事を食べさせてもらっています。隣人に雇われて、農作業の手伝いの仕事があるときには1日5000リエル(1\$≒4000リエル)を稼ぐことができますが、農作業のない日は、仕事がありません。家の建っている小さな土地と1ヘクタールの農地がありますが、農地は弟に貸しており、ときどき収穫した作物をもらうこともあります。日々の食べるものもない状況のなかで、子どもたちは3人とも学校へ通わせることができていません。カンボジアでは、こうした貧しい家族は生活が難しくなるとタイの国境などへ出稼ぎに行ったり、移住してしまうケースがたくさんあります。そして誰も入ろうとしないので残っている地雷原の森を切り開き、木を売って、土地を耕し、農地にしようとして地雷被害にあう村人があとを絶ちません。これまでの調査からこうしたカンボジアの現状を考慮して、地雷被害者のさらなる増加を予防することも1つの目的として、この家族の生活再建支援を決定しました。小額の資金提供を利用して10月から野菜やフルーツを市場で安く仕入れ、他の土地で売ることによって差額を得るビジネスを始めることを予定しています。最後に学校へ通えない子どもたちに、将来の夢を聞きました。8歳の娘はまだ幼くて何になりたいのかまだ分からないようでしたが、11歳の息子は、『医者になりたい』と恥ずかしそうに夢を語ってくれました。



■ホームページから入会申込（継続）ができるようになりました。

テラ・ルネッサンスでは、会員（サポーター）になっていただくことを、身近な国際協力・社会参加の第1歩と考え、呼びかけてきたのですが、『郵便局や銀行で送金する時間がない。』などの声をたくさんお聞きし、サポーターになりたい方の想いを無駄にしない方法を検討してきました。そこで、京都のNGO 単独では初めて、新規入会・継続手続きを、ホームページからできるようにいたしました。

しかも、支払い方法が、従来の郵便振込、自動振替だけでなく、クレジットカード決済、コンビニエンスストアでのお支払もお選びいただけます。とっても便利になりました！！ぜひ、この機会に、国際協力の第1歩、サポーター登録（入会）をお願いいたします。

詳しくは、下記のページをご覧ください。

【入会申込ページ】 http://www.terra-r.jp/profile/entry_f.html

■3本の映画とトークがついて、とってもオトク。本会も共催、大阪平和映画祭。

映画とトークで、平和を考える『大阪平和映画祭』。3本の映画と、各地で活躍する3名のトークを1日で聞けるお得なイベントです。本会が推薦した「イノセント・ボイス（エルサルバドルを舞台にした子ども兵に関する映画）」も上映されます。当日は、理事長も出演して、イノセント・ボイスの解説と、子ども兵問題についてお話しします。



《 大阪平和映画祭 詳細 》

出演：てんつくまん、きくちゆみ、鬼丸昌也

上映：『平和の創り方』、『イノセント・ボイス』、
『天国はつくるもの107+1』

日時：2006年10月14日（土）

10：00開場 20：00終演予定

会場：エルおおさかホール（大阪府立労働センター）

チケット：前売券2800円（入替無し、1日通用）

ペア券4500円（入替無し、1日通用）

【前売りチケットのお求めは、郵便振込みでお願いします】加入番号：00960-2-267686

加入者名：JJプロジェクト関西

※振込み用紙の控えがチケット代わりになりますので、当日、必ずお持ちください。

■詳しいスケジュールなどについては、こちら。 <http://blogst.jp/osaka-p-f/archive/1>

■地雷ゼロを目指して、野外ライブ。収益を地雷撤去に。10月15日（日）ゼロ祭り。

森源太（もりげんた）さん。 <http://www.morigenta.com/> ママチャリで日本一周し、心にしみる歌を歌い続けてきたアーティスト。源太さんと友人たちで、10月15日（日）に服部緑地公園（大阪）にて、『ゼロ祭り』という野外ライブを開催。収益の一部を、カンボジアの地雷撤去に寄付くださいます。森源太さんと出逢って、カンボジアの子どもたちへの熱い思いを聞かさせていただくと、こちら心から応援したいと思うようになりました。それほど心を込めた素晴らしい若者たちのイベントです。ぜひ、関西近郊の方は、10月15日には『ゼロ祭り』にご参加ください。2,000円で、素晴らしい音楽に出会え、カンボジアの地雷撤去を応援することができます。



■『ゼロ祭り』の日程、会場、チケット購入方法などは、こちら <http://www.zeromatsuri.com/>

■夏季募金へのご協力、ありがとうございました～81万0482円が寄せられました～



修理された車と受益者(チャイルド・マザー)の子どもたち

8月1日から開始した夏季募金キャンペーン。9月15日の終了時には、目標を超える約81万円もの募金が寄せられました！今回の夏季募金は、ウガンダのスマイルハウスで使用している元・子ども兵の送迎車が壊れてしまったため、その修理費への呼びかけをさせていただいたのですが、中には「車の修理費に使ってください」というメッセージを書いて振込みをしてくださる方もたくさんいらっしゃいました。現場のプロジェクトを行う上で車がいかに重要かということ、支援者の皆様のご理解くださっていることに、深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

■カンボジア3都市をめぐるスタディツアー2006.8

3月に引き続き、8月もカンボジアへのスタディツアーを行いました。今回は過去最多の10人が参加。昨年の今頃は干ばつがひどかったカンボジアですが、今年は洪水が頻発しており、メインである地雷原の見学も断念せざるを得ないほどでした。しかし、地盤がゆるくても地雷撤去作業は行われており、乾季のカンボジアでは見ることのできない側面を垣間見ることができました。

また、今回のガイドを引き受けてくれたとても活発で明るいソティさんは、実はカンボジア政府軍に拉致され、子ども兵として戦った経験を持っていました。参加者はソティさんの笑顔の奥に隠された苦しみを感じ取ることで、「紛争」というものを身近に感じたようでした。

ツアーの報告会は京都・東京の2箇所で開催いたします。スタディツアーに参加してみたいと思っ
ていらっしゃる方は、ぜひ報告会にご参加ください。(報告会の詳細は、ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください)



ブレマ株式会社様よりいただいた除虫菊を配る、ガイドのソティさん



完成したボランティア・ミーティングルーム。報告会などにも対応できます

■ボランティア/ミーティングルームができました！

ボランティア事業の立ち上げにあたり、テラ・ルネッサンス事務局ではボランティアさんが作業のできる部屋を借りることにしました。場所は事務局の隣部屋で、目の前に公園が見える、とても開放的なスペースです。8月21日・23日の2日間をかけて大清掃を行いました。21日の時点では、天井のライトの縁から虫が落ちてくるようなおそろしい状況でしたが、21日に2名・23日に4名ががりて清掃を行い、見違えるようにキレイになりました。この部屋で、ボランティアさん主体的に事業を生み出せるようになってくれることを期待しています。一緒に清掃を手伝ってくださりましたボランティアのみなさま、ほんとうにありがとうございました。

ウガンダでの元子ども兵社会復帰支援事業に関連し、ウガンダ原産コーヒーを販売することになりました。その名も、「Café de Terra Renaissance (カフェ デラ ルネッサンス)」。

必要経費を除く収益は、すべてウガンダ北部における支援事業にあてられます。

おいしいコーヒーを飲んで、元子ども兵の社会復帰を応援してみませんか？

■無化学肥料・無農薬だから、生産者も消費者も安全・安心！

「Café de Terra Renaissance」は、化学肥料や農薬を一切使わず、自然栽培されたコーヒー豆を使用しています。コーヒーの苗も現地に自生しているものを、畑に移植して栽培しているので遺伝子組換えの心配もありません。

■なぜオーガニック認証を取得していないの？

オーガニックというのは、国際的基準（日本では有機JAS規格）で認証されたものをいいます。この基準は、確かに無化学肥料・無農薬ではありますが、土壌に染み込んでいる残留農薬などの影響で作物に化学物質が検出されたとしても、基準の数値さえクリアしていればオーガニックと呼ぶことができます。

「Café de Terra Renaissance」の取扱元である（株）クリスタルコーヒー（前：勝原コーヒー <http://www.katsuhara.jp>）は、独自の検査機関を通して600種の化学成分を検査し、すべて無化学成分であることを証明しています。ですから、オーガニック認証は取得していませんが、栽培→出荷→輸入のすべての工程において、化学成分は一切使用していないということです。



■フェア・トレード（公正貿易）商品

このコーヒー豆は、すべて現地の人々が栽培し、取扱元である（株）クリスタルコーヒーを通して正当な賃金が支払われています。

■コーヒー会員になりませんか？

テラ・ルネッサンスでは、現在さまざまな支援事業に取り組んでいますが、安定した財源確保がまだできていません。今後も国際協力事業を、安定的に継続していくために、資金を十分に確保する必要があります。その一環として、コーヒー会員制度を設けることになりました。登録すれば、3ヶ月に一度、おいしいコーヒー2袋とウガンダ関連グッズがお手元に届きます。会費は月々1,000円！コーヒー会員になって、あなたもウガンダの元子ども兵社会復帰事業を応援してみませんか？

お申込み方法

e-mail または FAX にて、住所・氏名・連絡先を明記の上、「コーヒー会員希望」と表記してください。後日専用の登録用紙を送付いたします。e-mail: contact@terra-r.jp FAX: 075-645-1802

■ボランティア 春山 裕貴子（物販事業担当）



今回コーヒー販売を担当することになりました春山裕貴子です。18歳の頃に地雷被害に関心を持ち、テラ・ルネッサンス設立初期からボランティアとして関わっています。この物販事業を通して、テラ・ルネッサンスが取り組んでいる支援事業の継続に貢献していきたいと考えています。事業を行なう中で、いろいろな経験をしていくと思いますが、そのすべてが人と人との関わりである

ということを忘れずに歩んでいきますので、これからもよろしくお願いします。

テラ・ルネッサンスではここ最近インターンの活躍が際だっています。ボランティアとは異なり業務の主担当などを任せる分、責任を持った仕事を求められますが、それぞれの得意分野や個性を活かしてテラ・ルネを盛り上げてくれています。

■インターン生 上原 誠子さん（立命館大学文学部心理学科在学）



9月よりインターンシップをさせていただいている、立命館大学3回生の上原誠子です。大学では“人が生まれながらに持っている可能性を引き出す支援について研究したい”と思い、心理学を専攻しています。支援者がいる間のみ成立する援助ではなく、世代を超え受け継がれるような効果を持った援助とは何か、支援される側が自ら気づき活動する環境設定とはどのようなものだろうかと考えていました。

そのような興味関心を軸にいつか発展途上国という場で具体的に行動をしたいと以前より考えていました。このように知識ばかりを追い求めるのではなくフィールドに出て様々なことを吸収したいという思いがあったため、今回インターンシップに参加させていただこうと決心しました。またインターンシップでは自分の興味関心に関連した事のみに着目するのではなく、対人援助の場における援助者として

のバランス感覚や柔軟性も学ばせていただきたいと思います。「大学生活で1番力を注いだことは、テラ・ルネッサンスのインターンシップです」と胸を張って言えるように精一杯頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。

毎年夏休みは、休暇を利用して中期（2ヶ月間）のインターンもたくさんやってきます。長期のインターンに比べて学習的要素が強いことが特徴ですが、カンボジアのスタディツアーにも参加するなど、積極的に業務を担当してくれました。

■美馬清美さん（大学コンソーシアム京都より）

中期インターン生の美馬清美と申します。本当に多くの方々にテラ・ルネッサンスが支えられていることを様々な業務を通して感じると共に、つながりの大切さというのを学ばせていただきました。

また、カンボジアでは与えられた情報ではなく、実際に現実を体感することにより様々な問題と向き合い、平和の尊さについて真剣に考えることができました。これから卒業するまで、多くの世界や平和に関する知識をつけ、「知った者の責任」としてたくさんの方に関心を抱いていただけるよう、できる限りのことを実践していきたいと思えます。

この2ヶ月間は本当に貴重な経験ができました。多くの方との出会いや学びの機会を与えてくださりありがとうございました。

■西村夏実さん（大学コンソーシアム京都より）

2ヶ月前、NGOとは何かを学ぶところから始まり、地雷や貧困・環境などの問題の現状、それに対する様々な支援を見てきました。そしてそれらを知るにつれて、あらゆる支援の根本には、私たち一人ひとりの意識があることを感じました。寄付・物品回収・署名・リサイクルなど、一人ひとりのできることは限られていてもそれらが積み積み重ねて大きな支援を実現させていることを学びました。そして、私にもできることがたくさんあると感じました。この気持ちを忘れずに、世界のあらゆる問題に目を向け、そして自分のできるところから行動していこうと思います。インターン終了後もボランティアスタッフとしてお手伝いに行かせていただきたいと思っています。

■10月～11月の予定（一部）★は一般参加可のイベントです

- ★10月07日（土）講演：島根大学モンゴルの会（島根）
- ★10月07日（土）主催：スタディツアー報告会（京都）
- ★10月14日（土）講演：大阪平和映画祭（大阪）
- ★10月15日（日）講演：NPO 法人さぬきっずコムシアター（香川）
- ☆10月17日（火）講演：株式会社アイケイ（愛知）
- ☆10月21日（土）講演：JAM兵庫（兵庫）
- ☆10月25日（水）講演：練馬区大泉第二中学校（東京）
- ☆10月29日（日）主催：スタディツアー報告会（東京）
- ☆10月30日（月）講演：中越理容女性部会（新潟）
- ★11月02日（木）講演：龍大ボランティアNPOセンター（滋賀）
- ☆11月08日（水）講演：松坂青年会議所（三重）
- ★11月18日（日）出展：みえ国際貢献フェスタ（三重）

ネットで情報発信中

■理事長の講演スケジュールや、イベント情報をいち早く公式ブログ発信中。

【公式ブログ】
<http://terra01.exblog.jp>

■メルマガ「テラ・ルネニユース」も毎週発行中。
 下記URLから登録可能。
<http://www.mag2.com/m/0000193855.html>

※11月10日から設立5周年記念全国キャラバンはじまります！
 テラ・ルネッサンス主催イベントへのお問い合わせは、
 テラ・ルネッサンス事務局（担当/鬼丸・森本）までお願いします。

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか（会員募集）

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。

【会員特典】・会報誌「結晶母」等の贈呈・テラ・ルネッサンス主催のイベントへの優待 など

【会員

種別】

正会員	●正会員	30,000円/年
賛助会員	●個人会員	3,000円/年
	●ジュニア会員（18歳まで）	1,000円/年
	●団体会員	50,000円/年
ファンクラブ会員	●理念に賛同し、月単位で継続支援される方	1,000円/月

郵便振替 00950-7-133760

加入者名 テラ・ルネッサンス基金



FOR YOUR QUARITY TIME

<http://purelife.jp>

『結晶母』は株式会社ピュアライフジャパン様の広告協賛で作られています

【編集後記】（事務局：森本のり子）

先日、カンボジアで現地ドライバースタッフのお子さんに会ってきました。もうすぐ1歳になる、目のくりくりしたかわいい女の子。スタッフを雇用するということは、彼に連なる家族にも責任を負わないといけない。改めて事務局スタッフとしての責務の重大さを感じました。

【編集・発行】

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
 612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105
 tel/fax:075-645-1802 e-mail:contact@terra-r.jp
 URL <http://www.terra-r.jp>



本誌はリサイクルや地球環境に配慮した大豆油インクを使用しています